

# 大川地区題材に2本監督

石巻出身 佐藤そのみさん(24) 日大時代

## 震災体験重ねて映画作る

石巻市出身の佐藤そのみさん(24)は、東京都で、日大芸術学部映画学科に在籍していたころに監督として作った映画2本が21日、石巻市中央3丁目の旧観慶丸商店で上映される。劇映画「春をかさねて」(2018年、45分)とドキュメンタリー映画「あなたの瞳に話せたら」(19年、29分)。2本とも東日本大震災で多くの犠牲を出した大川地区を題材にしており、佐藤さん自身の体験が重ねられている。

### 21日、古里で初上映 旧観慶丸商店

震災当時、佐藤さんは大川中2年だった。自分は無事だったが、大川小6年だった妹みずほさん(12)を津波で亡くした。映画会は「ある春のため」の上映会―石巻市大川をめぐる2本立て―(実行委員会主催)と題して開催。

「春をかさねて」は、脚本も佐藤さんが手掛けた。震災当時の記憶をモチーフにした映画で、震災で妹を

亡くした14歳の少女・今野祐未が、この経験を発信しようとする物語。大川地区などで撮影。出演者も芝原弘さん(コマイぬ)ら石巻出身者や地元の劇団で活動する俳優たちを起用した。全国初の公開となる。

「あなたの瞳に話せたら」は児童・教職員84人が犠牲になった大川小にまつわる短編。震災から8年半が過ぎた19年12月に撮影。友人



映画「春をかさねて」を大川小校庭で撮影。カメラの脇に立って指示しているのが監督の佐藤さん(右)＝2019年3月19日

や家族を亡くした当時の子どもたちがあれから何を感ず、どのように生きてきたのかを、自身も遺族である佐藤さんがカメラを持って向き合った。昨年12月、東京・新宿で行われた「東京ドキュメンタリー映画祭2020」で準グランプリと観客賞を受賞した。

「春をかさねて」で今野祐未を演じたのが、地元の劇団「スイミー」はまた旅の途中」で活動する斎藤小枝さん(17)は石巻好文館高2年。妹の死をどう表現してよいか難しかった」と話す。母親役を演じたのが小枝さんの母で、スイミーの団員である由佳里さん。映画の中でも親子を演じた。由佳里さんは「震災から10年。2本の映画を通じて一人一人が自分自身と向き合うことができる時間になれば」と呼び掛ける。昨年3月に日大を卒業した佐藤さんは「小学6年のころから映画を作りたいと思うようになった。それが石巻で、石巻の人たちと作ることができた」と語る。

当日は①午後2～4時②